

平成22年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

渡邊 研究室	氏 名	前 田 啓 太
卒業研究題目	スライド作成スキル育成のための議論誘発支援	

プレゼンテーションでは、発表者は自身の研究内容を的確に伝えるために、聴衆者の理解レベルを考慮して聴衆者により良く理解してもらえるようなストーリーを構成し、プレゼンテーション・スライド（以下、スライド）を作成する。しかし、発表者が構成したストーリーが聴衆者に対して必ずしも意図した内容を上手く伝達できるものになっているとは限らない。発表者の視点のみから構成されたストーリーの修正点と、その理由を考えることはスライド作成スキルの向上に繋がる。本研究では、発表者による発表、聴衆者による修正案の作成、発表者と聴衆者による修正案に関する議論の一連の活動を対象とし、それらを容易に行うことのできるスライド作成スキル育成支援環境の構築を目的とする。発表者のスライド原案に基づいて聴衆者に修正案を作成させる環境の構築と、原案と修正案の相違に基づいた議論箇所の提示を実現する。

図1に対象とするスライド修正活動とその支援方法を示す。スライド修正案では、原案に基づいた修正箇所の指示が容易にできることが望ましい。しかし、PowerPointなどの既存のスライド作成ツールではスライドが1枚ずつ表示されるため、全体の流れを意識して修正案を作成することは困難である。そこで、原案をパーツに分割したものを自由に配置できるスライド修正案作成ツールを構築する。スライド修正案作成ツールでは、原案のスライドのタイトル、図、表、大見出しで分割したテキストをパーツとし、それらのグループ化と順序関係を表現できるインタフェースを保持する。1つのインタフェース上で、原案のパーツを再構成させることで、ストーリーを意識した修正案の作成が可能となる。プロトタイプ・システムを用いた評価実験の結果、本ツールを用いることでストーリーに焦点を当てた修正案が容易に作成できることを確認した。

修正案の議論では、原案で修正された箇所に関して修正理由を考えることでその妥当性を検討する。そのためには、修正された箇所を容易に把握できることが望ましい。プレゼンテーションのストーリーはトピックを構成するパーツと、そのトピックの系列で表現される。そこで、トピックとパーツそれぞれに対して削除、追加、移動が把握できることが望ましい。本研究では原案と修正案を上下に並べ、トピックの移動に対応するタイトルパーツ間のリンクで、パーツの挿入・追加・移動に対応するパーツの背景色を変化させることで表示する。プロトタイプ・システムを用いて、修士課程の学生1名のスライドを題材に、研究室の教員1名、博士課程の学生3名を被験者とし、評価実験をもらった。その結果、パーツの追加・削除に関しては議論の促進に効果的であることが明らかになった。

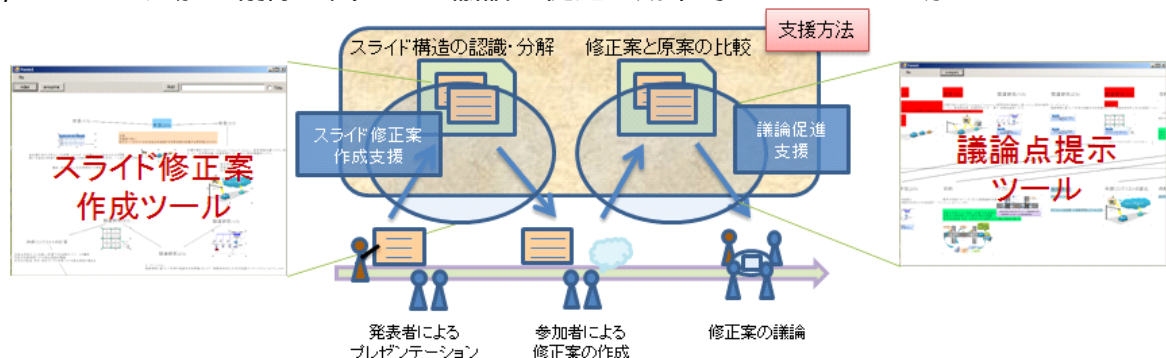


図1 スライド修正活動と支援ツール